

令和7年度
全国学力・学習状況調査
八代市の結果概要

八代市教育委員会

1 調査の概要

(1) 調査実施日 令和7年4月17日(木)

(2) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(3) 調査の対象

- ・ 小学校第6学年の児童、中学校第3学年の生徒

(4) 調査の内容

- ・ 教科に関する調査（小学校：国語・算数・理科、中学校：国語・数学・理科）
- ・ 質問紙調査（児童生徒に対する調査、学校に対する調査）

2 教科に関する調査の概要

(1) 小学校 6 年生

【小学校 6 年生】	国語	算数	理科
八代市	6 6 %	5 4 %	5 6 %
熊本県	6 6 %	5 5 %	5 7 %
全国	6 6 . 8 %	5 8 . 0 %	5 7 . 1 %

※ 表中の数値は平均正答率（ただし、県及び市の値は国から整数値で公表）

- ・ 国語と理科については、熊本県及び全国平均と同程度であった。算数においては熊本県平均とは同程度であったが、全国平均は下回っている。
- ・ 国語では「情報の扱い方に関する事項」、算数では「数と計算」、理科では「『地球』を柱とする領域」等の内容に課題が見られる。

2 教科に関する調査の概要

(2) 中学校3年生

【中学校3年生】	国語	数学	理科(CBT*)
八代市	50%	39%	475
熊本県	53%	44%	497
全国	54.3%	48.3%	503

※ 表中の国語・数学の数値は、平均正答率（ただし、県及び市の値は国から整数値で公表）

※ 理科については、平均のIRTスコア**

- ・ 3教科とも熊本県及び全国平均を下回っている。
- ・ 国語では「言葉の特徴や使い方に関する事項」、数学では「図形」、理科では「『エネルギー』『粒子』を柱とする領域」等の内容に課題が見られる。

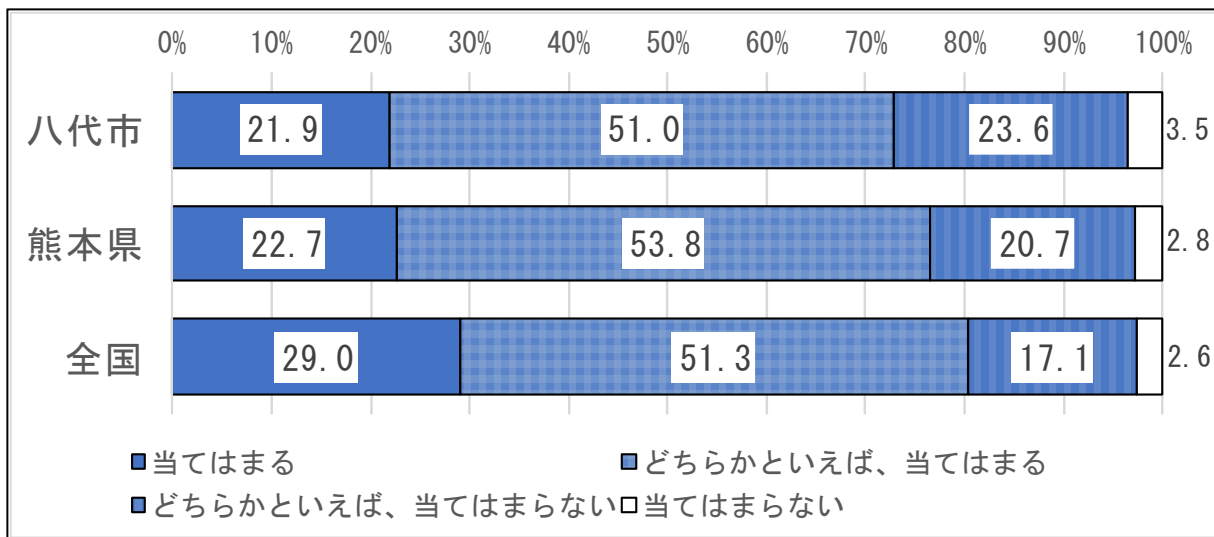
*コンピュータによる調査方法のこと **各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500点を基準にした得点で表したもの

3 質問紙に関する調査の主な結果（小中学校）

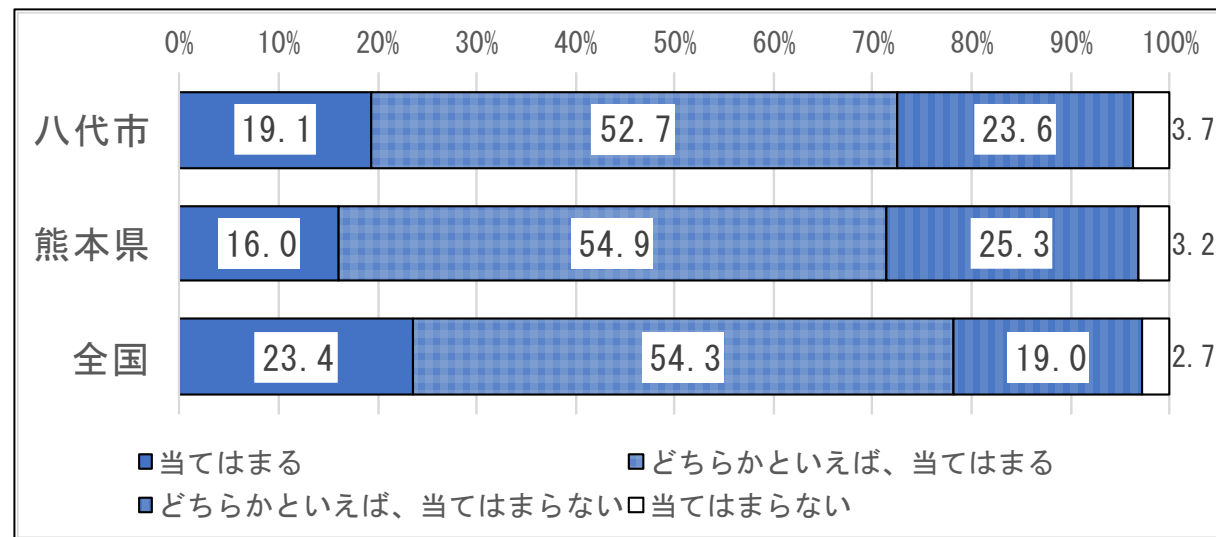
（１）【主体的な学び】に係る質問

○ ５年生（中学校においては、１、２年生）までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

ア 小学校



イ 中学校



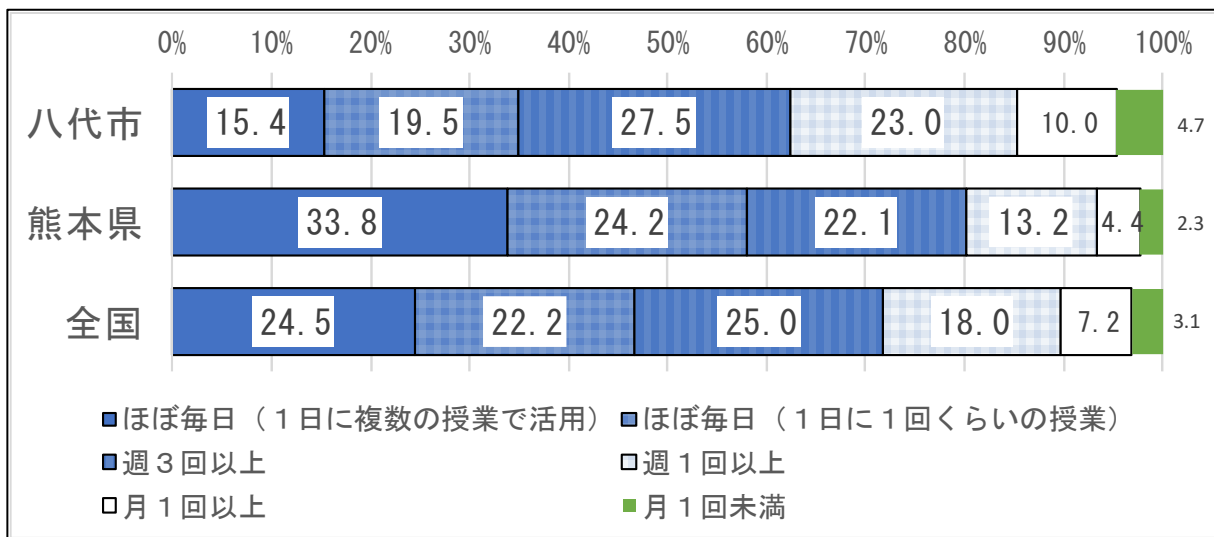
「当てはまる」及び「どちらかといえば、当てはまる」の割合は、小学校では熊本県及び全国平均を下回っている。中学校では熊本県平均を上回ったが、全国平均は下回った。

3 質問紙に関する調査の主な結果（小中学校）

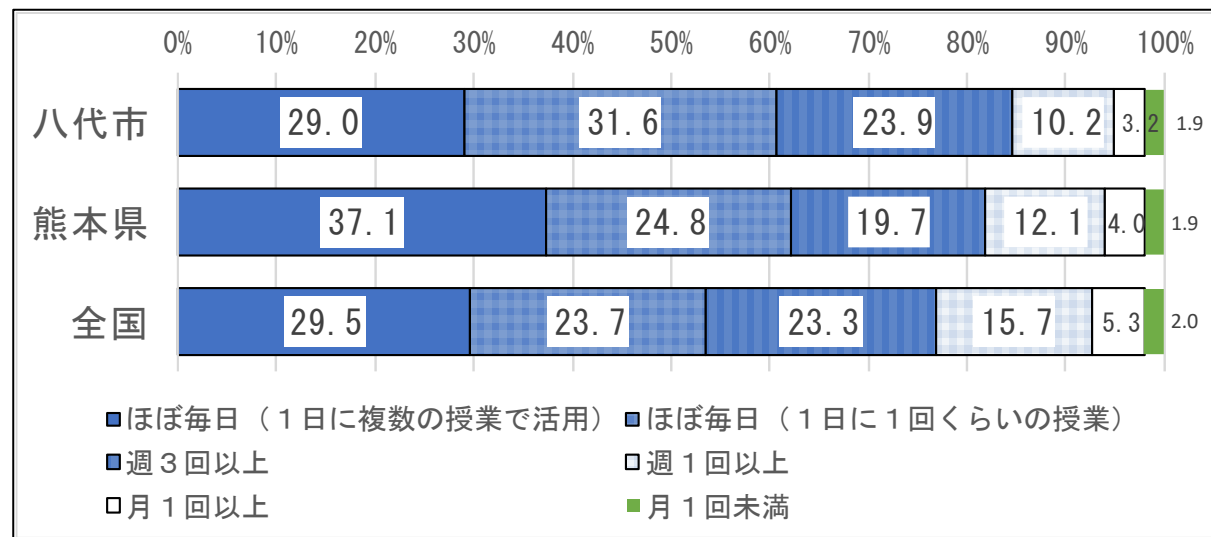
（2）【ICT活用】に係る質問

○ 5年生（中学校においては、1、2年生）までに受けた授業で、P C・タブレットなどのI C T機器を、どの程度使用しましたか

ア 小学校



イ 中学校



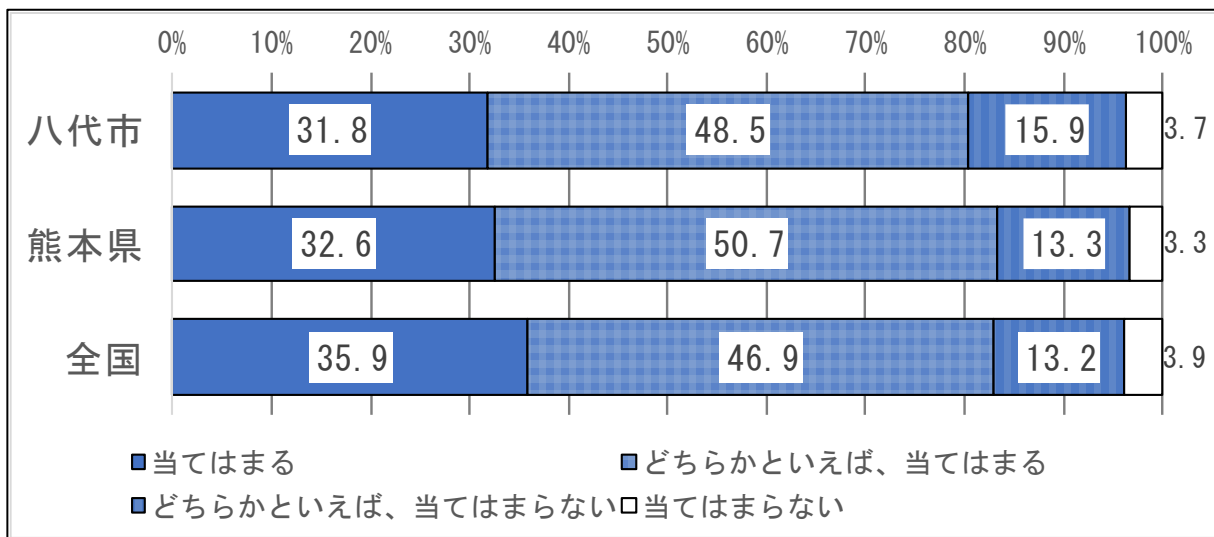
「ほぼ毎日」及び「週3回以上」の割合は、小学校では熊本県及び全国平均を下回っている。中学校では熊本県及び全国平均を上回った。

3 質問紙に関する調査の主な結果（小中学校）

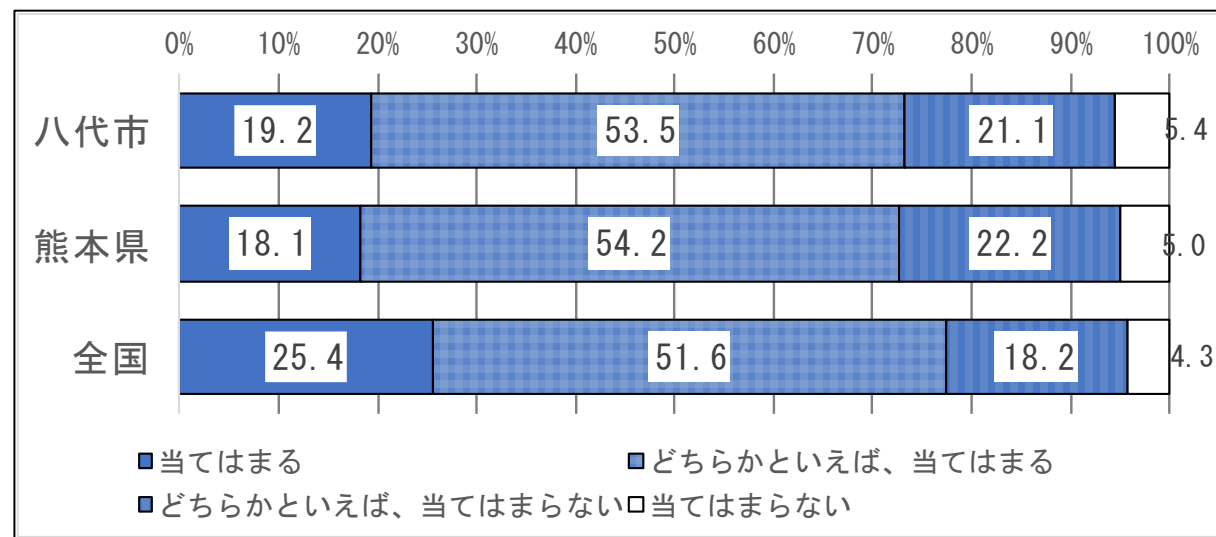
（3）【学習の定着】（国語）に係る質問

○ 国語の授業の内容はよく分かりますか

ア 小学校



イ 中学校



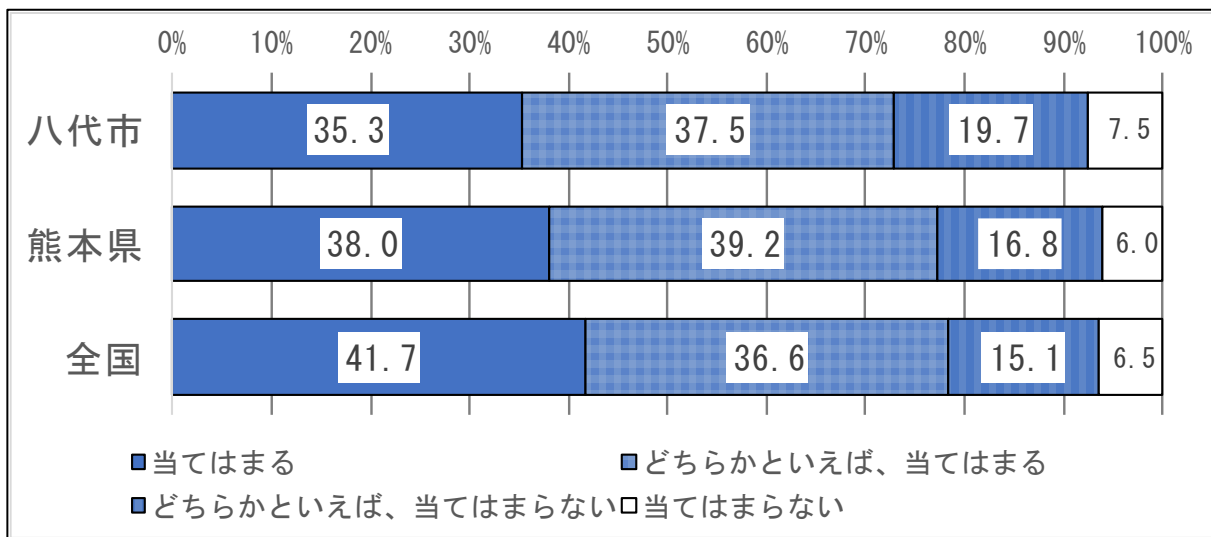
「当てはまる」及び「どちらかといえば、当てはまる」の割合は、小学校では熊本県及び全国平均を下回っている。中学校では全国平均を下回ったが、熊本県平均は上回った。

3 質問紙に関する調査の主な結果（小中学校）

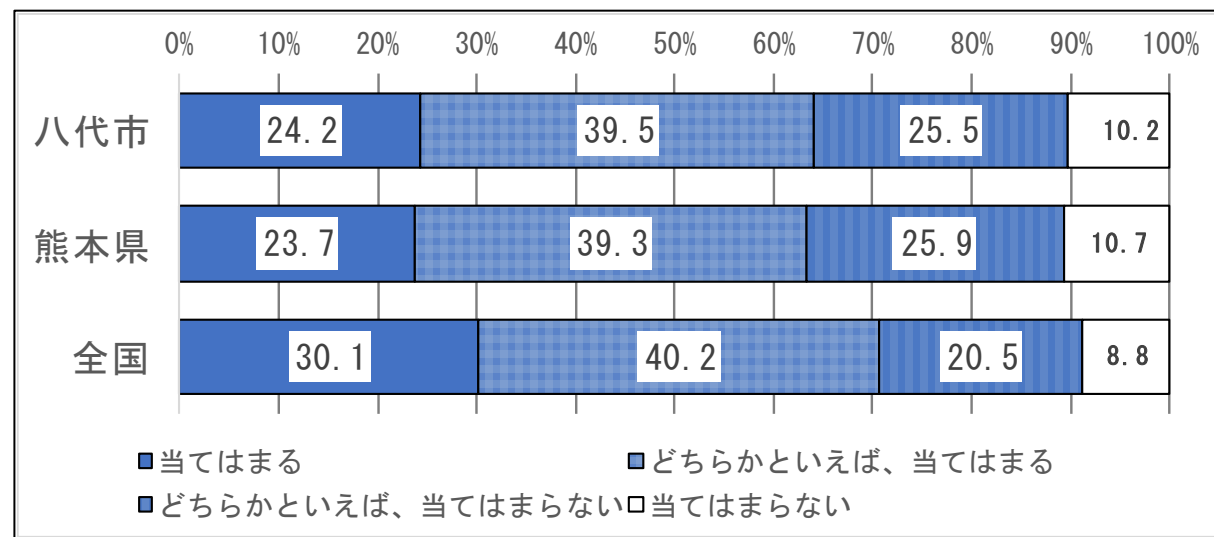
（４）【学習の定着】（算数・数学）に係る質問

○ 算数・数学の授業の内容はよく分かりますか

ア 小学校



イ 中学校



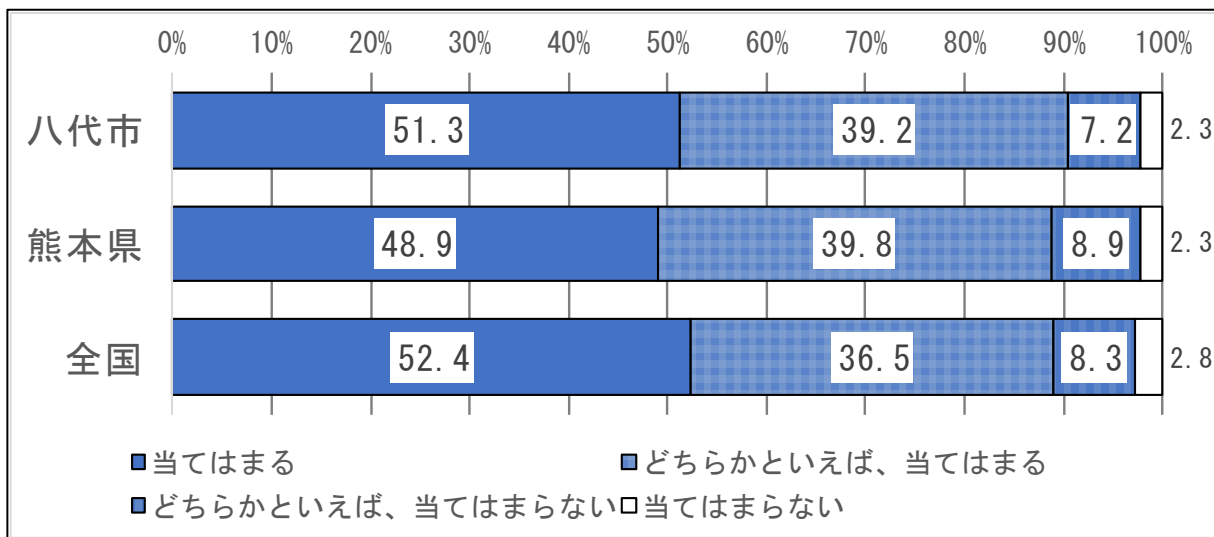
「当てはまる」及び「どちらかといえば、当てはまる」の割合は、小学校では熊本県及び全国平均を下回っている。中学校では全国平均を下回ったが、熊本県平均は上回った。

3 質問紙に関する調査の主な結果（小中学校）

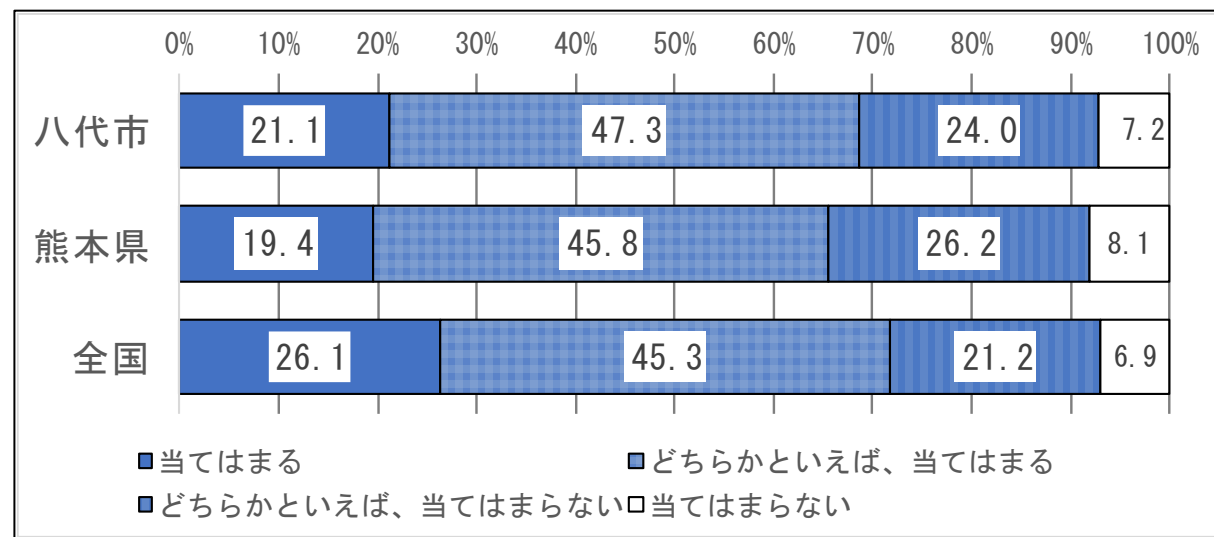
（５）【学習の定着】（理科）に係る質問

○ 理科の授業の内容はよく分かりますか

ア 小学校



イ 中学校



「当てはまる」及び「どちらかといえば、当てはまる」の割合は、小学校では熊本県及び全国平均を上回っている。中学校では全国平均を下回ったが、熊本県平均は上回った。

3 質問紙に関する調査の主な結果（小中学校）

（6）良好な傾向が見られた質問

単位（％）

質 問 項 目	小学校		中学校	
	本市	全国	本市	全国
将来の夢や目標をもっていますか	83.4	83.1	68.9	67.5
学校に行くのは楽しいと思いますか	87.3	86.5	87.3	86.1
先生は、授業やテストで間違えたところや理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか	88.8	87.4	83.9	83.8

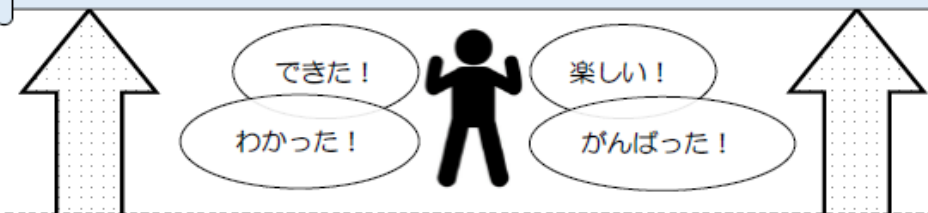
※ 表中の数値は肯定値（「当てはまる」や「どちらかといえば、当てはまる」等を合わせた割合）

4 今後の取組

八代市教育委員会では、本調査等の結果分析を踏まえ、第3期八代市教育振興基本計画に示しております「やつしろの 絆でつむぐ 心豊かな人づくり」の基本理念の下、学力向上に向けて、以下のことに重点的に取り組んでいきます。

- 「子供が主体となって活躍する場面の設定」等を共通実践事項とする「授業改善ステップワン」（右資料）を今年度改訂し、各学校において取組の推進を行なっています。これを基に、各学校と連携しながら、ICTの効果的な活用を図るとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めます。
- 本市立幼稚園及び各学校では、「自分からすすんであいさつをする」「話す人の顔を見てしっかり話を聴く」「靴のかかとを靴箱の手前のへりにそろえる」の3点の徹底を図る「やつしろスピリッツ」の実践に取り組んでいます。このことを通して、学力向上の基盤となる学びの土台づくりに努めます。
- 本調査の他に、本市独自に八代市学力・学習状況調査等を実施しています。これらの各種調査を基に、児童生徒の状況を把握し、学力向上に向けた検証改善サイクルを確立します。

いきいきと学ぶ やつしろの子供



【期待する子供の姿】

- それぞれの子供が課題をもち、粘り強く取り組んだり、自らの学びを振り返ったりする姿
- それぞれの子供が自分の思いや考えを基に、多様な他者との対話を通して学びを深める姿

【共通実践事項】

子供が主体となって活躍する場面の設定

ア 適切な課題の設定（導入）

- 子供が「やってみよう」と思う課題の設定
- 子供が単元のゴールを見通すことができる課題の設定



イ 子供の活動時間の保障（展開）

- 子供が考えをもつための書く活動の設定
- 子供が考えを広げたり深めたりするための話し合い活動の設定

ウ 学びを振り返る機会の設定（終末）

- 子供の「わかった」「できた」を実感できる定着確認
- 子供の「なぜ」「どうして」を次の学びや家庭学習等につなげる振り返り

※子供一人一人の状況を把握し、適切な支援を徹底する

【「やつしろの子供」の実態】 ※令和6年度 全国学力・学習状況調査から

- ・授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか
＜肯定率＞ 小6：74.9%（全国比 -7.0） 中3：70.5%（全国比 -9.8）
- ・授業の内容はよく分かりますか（国語及び算数・数学の平均値）
＜肯定率＞ 小6：83.1%（全国比 -1.1） 中3：73.2%（全国比 -6.0）